

令和元年度第2回庄原市「学びの革新」推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会

令和元年8月7日(水) 10:00~16:35 庄原市ふれあいセンター

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話】「研究主任の役割」

庄原市教育委員会 指導主事 小谷 綾子



- 研究主任として、研究推進計画の立案・実施・まとめ、研究推進に係る連絡調整・体制づくりを行うこと。
- 校内授業研修会では、実際の児童生徒の姿をもとに、指導が適切であったか、授業仮説が実態に合っていたかなど、十分に協議する必要がある。

【参加者の感想等】

- ◆授業研究の事後協議では、児童の誤答をもとに誤答の原因を分析したり、改善案を考えたりすることができるといった。
- ◆今年度の研究主題について見直し、研究仮説から授業仮説へと具体化していくことを自校でも行っていきたい。

【講話】「学習評価の在り方について」

庄原市教育委員会 指導主事 小谷 綾子



- 観点別学習状況評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価を行う。
- 指導に生かされ、児童生徒の力の育成につながる評価を行う必要がある。

【参加者の感想等】

- ◆現在、どの方法で評価をしているのか交流したことで、どの学校も、どの教員も悩み、課題は共通していると感じた。「学習評価のハンドブック」を活用しながら研修を深めていきたい。
- ◆新学習指導要領の全面实施に向けて、今一度、評価の在り方について全職員で研修する必要がある。

【実践発表】「学力フォローアップ校の取組」

庄原市立東城小学校 教諭 片山 博子



- 学力フォローアップ校事業は、児童の「主体的な学び」を促進し、学力の向上を図るため、小学校低学年段階からのつまずき等を把握し、解消する指導方法等に係る実践的な研究を進め、その成果を検証、普及することを目的としている。
- 研究授業前の事前研修では、児童の実態をもとに、つまずきの要因を分析し、そのつまずきに対する具体的な手立てを考える。また、事後研修では、つまずきに対する手立てが有効であったか協議を行う。

【参加者の感想等】

- ◆児童の課題を全職員で分析し、それを改善する手立てを全体で考えるという取組は大変参考になった。
- ◆縦のつながりを大事にして、組織的に取組を進められている点が参考になった。特に低学年にスポットを当てているが、この取組と併せて、保小連携やスタートカリキュラムの取組も充実させていくとよいと思った。



【協議1】「日頃の授業改善に向けて」

庄原市教育委員会 指導主事 和田 杏奈



■1学期の各学校での「課題発見・解決学習」の実践状況とその実践を、日頃の授業改善にどのようにつなげていったかについて協議を行った。

【協議での意見】

- ◆「課題発見・解決学習」の単元開発については、形にとらわれすぎて本来の目的を見失っている感じを受けることがある。そのような中、教科で付けたい力や、単元を通して付けたい力について研究を進められている他校の取組が大変参考になった。
- ◆児童が興味・関心をもち、主体的に学ぶことができるような課題の設定が大切である。日頃の授業でも、課題設定の場面の工夫に心がけている。
- ◆授業研究会での学びを研究だより等で職員に周知し、日々の授業につなげている。
- ◆各教科での学習を他教科及び総合的な学習の時間にどのようにつなげるかを意識している。



【協議2】「カリキュラム・マネジメントの実践について」 庄原市教育委員会 指導主事 和田 杏奈



■カリキュラム・マネジメントの3つの側面（カリキュラム・デザイン、PDCAサイクル、内外リソースの活用）に係り、各学校での具体的な実践事例及び成果と課題等について協議を行った。

【協議での意見】

- ◆カリキュラム・マネジメントの3つの側面のうち、カリキュラム・デザインはおおむねできているが、PDCAサイクルを回し、改善を図っていく点については十分とは言えない。学校全体で課題をどのように改善していくか、学期ごとに見直しを行い、次年度に引き継ぐことができるようにする必要がある。
- ◆カリキュラムの見直しについては、日々更新できるように目に付くところに掲示等をして、全職員で行っていきたい。
- ◆他校の先生方と実践交流をすることでいろいろ学ぶことができたので、参考になった。自校の1学期の取組の見直しや修正を行い、2学期につなげていきたい。



【講話】「総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントに基づく授業改善の在り方」

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 川上 賢昭



- カリキュラム・マネジメントの軸となるのが総合的な学習の時間である。
- 総合的な学習の時間は、各教科等で身に付けた資質・能力が存分に活用・発揮されることで、学習活動が深まり、大きな成果を上げる。また、総合的な学習の時間は、各教科等の学習を動機付けたり推進したりする。
- 指導計画については、日々更新していくこと、また教職員全体で考えていくことが大切である。